

オンラインによる
まちづくり市民ワークショップ
実施報告書

令和3年8月 市長公室企画課

○背景及び目的

まちづくりに関する最上位の計画である「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」の計画期間満了を控え、次期最上位計画の策定に向けて準備を進めている。

そうした中、次期最上位計画の策定に当たっては、「時代の潮流や市民ニーズを捉えた実効性の高い計画づくり」「市民の声を反映した、分かりやすい「龍ヶ崎スタイル」の計画づくり」「龍ヶ崎らしさと戦略的視点を重視したメリハリのある計画づくり」の3つを基本方針として掲げている。

そのひとつである「市民の声を反映した、分かりやすい「龍ヶ崎スタイル」の計画づくり」の方針に基づき、市民アンケートやまちづくり市民ワークショップを実施したところであるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大終息が見えない中においても、よりよい龍ヶ崎市にするため、市民と対話し、様々な視点や立場から意見や提案をいただく場として、「オンラインによるまちづくり市民ワークショップ」を開催したものである。

○実施概要

- ・Zoomを活用したオンラインによるワークショップ
- ・開催日時等は以下のとおり

	開催日時	テーマ	参加者
(1)	7月29日(木)	「龍ヶ崎に住んでみたい」と思えるまちへ	6名
(2)	8月1日(日)	「龍ヶ崎で子育てがしたい」と思えるまちへ	3名
(3)	8月3日(火)	SDGsの実現に向けて私たちができること	7名
(4)	8月7日(土)	居心地のよい「新保健福祉施設」とするために	5名

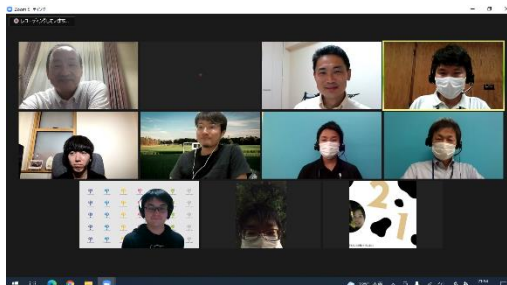
○参加者の募集方法

- (1) 無作為により抽出された市民 (500人)
 - ・令和3年7月15日 参加依頼を郵送で送付
 - ・令和3年7月25日 申し込み締め切り
- (2) 市政モニター (486人)
 - ・令和3年7月27日 参加依頼をメールで送付
 - ・令和3年7月29日～8月5日 申し込み締め切り
- (3) 市公式LINE登録者 (約10,000人)
 - ・令和3年7月28日 参加依頼をLINE上で通知
 - ・令和3年7月29日～8月5日 申し込み締め切り

※ 当初、サイレントマジョリティ対策として(1)により参加者を募ったところ、参加申し込み数が少なく、企画の開催が危ぶまれたところから、急遽(2)及び(3)による追加募集を行った。

第1回 「龍ヶ崎に住んでみたい」と思えるまちへ 結果概要

<p>Q. 理想の「住んでみたいまち」とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>公共交通の充実したまち</u> ・ <u>子どもや赤ちゃんなど、先の世代を見据えたまちづくりがされているまち</u> ・ <u>親の負担が少ないまち</u> ・ <u>ターゲットを絞った施策を展開すべき</u> ・ <u>イトーヨーカドーに福祉施設を入れられれば</u> ・ <u>会いたい人がいるまち</u> ・ <u>住みやすさを残しつつ、活気のあるまち</u> ・ <u>ベットタウンとして住みやすく、カフェのように交流できる場があるまち</u> ・ <u>他市と競争していけるまち</u> ・ <u>たまり場があるまち</u> ・ <u>医療の充実</u> ・ <u>遊べる箱があるといい</u> 	
<p>Q. 現実の龍ヶ崎市は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>都心からたまに遊びに帰ってくるのにちょうどいい</u> ・ <u>駅周辺は賑わいが無い</u> ・ <u>車がないと生活できない</u> ・ <u>高齢者や共働きの多い</u> ・ <u>空き施設が多く利用できる場所があるのに活用できていない</u> ・ <u>都内にも通いやすいのも強み</u> 	
<p>Q. 理想と現実を埋めるためには？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>市民が集まり、意見交換や交流ができる場所があるといい</u> ・ <u>他市町村と龍ヶ崎市を比較して、強みを伸ばしていくべき</u> ・ <u>ペルソナを立て、龍ヶ崎市の生活はこれだけ便利なんだというPRを外部にしていけばよいのでは</u> ・ <u>コロッケを生かしたイベントの開催</u> ・ <u>空き店舗や施設を活用して出店できるような環境を</u> 	
<p>Q. その他の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>家賃が安いのでそこをアピールできればいいのでは</u> ・ <u>どこに住むかは奥さんの意向が強い</u> ・ <u>奥さんをターゲットに施策を展開していくべき</u> ・ <u>職員が実際に市民の生活に密着するといったようなフィールドワークを行ってほしい</u> ・ <u>高齢化が見える化し、他市町村と競争してみても面白い</u> ・ <u>小学生と高齢者の交流の場を</u> ・ <u>リブラ・ヨーカドーに訪問医療の拠点を</u> ・ <u>カガミクリスタルのPR</u> 	



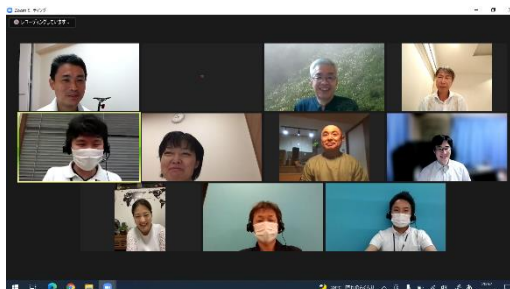
第2回 「龍ヶ崎で子育てがしたい」と思えるまちへ 結果概要

<p>Q. 理想の「子育てがしたい」まちとは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院・行政施設その他店舗などが入った複合的な商業施設があると、一度に様々な用事が済ませられてとても便利 ・PTAや送迎など、親の負担が少ないまち ・家、出産、仕事、妊活を効率よく進められるといい
<p>Q. 現実の龍ヶ崎市は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前でお家を買おうとすると高い ・駅前子どもステーションは憩いの場にもなっている ・たつのこやまは評判がいい ・家賃が安く、土地もそれなりに広いので子育てしやすい
<p>Q. 子どもの目線から考える「住んでみたいまち」とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動しやすいまち ・防犯面、安全面で不安のないまち
<p>Q. 短期・中長期で取り組んでほしいことは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代の親の負担を減らしてほしい ・市公式LINEにチャットボット機能があると、その場で疑問や不安を解決できるようになるのでは ・学校の統廃合による効率化・教育環境の充実 ・子どもたちを中心とした移動しやすい環境の整備
<p>Q. その他の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレックスタイムや育休の理解が進むよう市としても民間企業等に働きかけてほしい ・電動キックボードのような乗り物が普及すれば移動もしやすくなる ・市職員の説明が下手



第3回 SDGsの実現に向けて私たちができること 結果概要

Q. 10年後の世界・日本・龍ヶ崎市はどうなっているか？	
<ul style="list-style-type: none"> ・自動車なくなる ・自然エネルギーの活用促進 ・医療の充実(新たなワクチン開発) 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの減少 ・ゴミは減らない ・格差の拡大(教育・貧困・男女) ・コミュニケーションの希薄化
Q. 市としてできること, 市民としてできることは？	
<ul style="list-style-type: none"> ・自動車の利用を控える ・サイクリングを利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・規格外の野菜を使った料理コンテスト ・規格外の野菜を農家が消費者に届けられるような仕組みがあると活用も進むのでは ・川をきれいにすることで海もきれいになる ・ゴミに対する意識の向上 ・小中学生に対してワークショップを開催し, SDGsの理解を促す
Q. その他の意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・市がしっかり戦略を立ててから市民を巻き込むべき ・10年後よりも先を見た方が良い ・まちの持続性を持たせることが重要 ・交流, 出会いの場が必要 ・個人でできることはなかなかない 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設里親制度をもっと手軽に ・教育現場と行政の連携が必要 ・商店街のデザインを小中学生に ・SNSで仲間呼びかけてゴミ拾いを行っているが, もっとしやすい環境を整えてほしい



第4回 居心地のよい「新保健福祉施設」とするために 結果概要

<p>Q. あなたの考える「新保健福祉施設」のイメージは？</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもと母親が使いやすい環境・Wi-Fi 環境の整備・交通アクセスの良さ・子どもと高齢者が交流できる場所・バリアフリー・育児の愚痴を言い合えるような場所・BGMがあるといいのでは・明るい雰囲気・共働き世代向け学童ルームや送迎ステーションのような機能・農業体験ができる・子ども食堂・一人暮らしの老人が集う場、健康拠点となる施設
<p>Q. 市民交流機能の求めるものは？</p> <ul style="list-style-type: none">・ストリートピアノの設置・地元の食材を使った市民交流・施設を利用する人が自発的に活動する空間・井戸端会議ができるような空間・植物の育て方や野菜の作り方を学べる場所・障がい者にも配慮した施設（バリアフリー・多機能トイレ）・ユニバーサルデザインに配慮した案内
<p>Q. その他の意見</p> <ul style="list-style-type: none">・カフェは難しいのでは・屋上の活用・セラピードッグ・どんな建物かではなく何ができるかが大切・電気自動車の充電設備・りゅうほーでアイデアを募集してみても・アシモの設置



○まとめ

- ・ 当初、サイレントマジョリティ対策として無作為抽出により500人に参加依頼を送付し、また様々なテーマや日時を設定し、参加しやすい環境を整えたつもりであったが、参加希望者は約1%と、芳しくない状況であった。

また、その後も市政モニターや市公式LINE登録者など、一定の対象者向けに参加案内を送付したものの、参加希望者の大幅な増加は見られなかった。

開催日時が都合に合わなかったのか、テーマが興味を引かなかったのか、そもそも市政に興味がないのかといったような、なぜ参加しないのかという理由は不明であることから、今後市民参加型のワークショップ開催の際の参考として、積極的に参加する意思のある方とそうでない方の割合や、参加しない理由などの把握についても手法を検討したい。

- ・ 第1回のワークショップでは、「住んでみたいと思えるまちへ」のテーマの下、「活気や賑わい」「交流の場」「家賃の安さ」などがポイントとして挙げられていた。

「活気や賑わい」については、商店街のシャッター通り化が進む中、龍ヶ崎市の名物であるコロツケなどを活用した商品展開や、新規に商売を始めたいという方が出店できるよう空き店舗の活用を行い、経済活動の活性化によりまちとしての賑わいを創出することでまちの魅力も向上するのではとの提案であった。

「交流の場」については、当ワークショップもその一つであるが、市民が気軽に集まり、様々な意見交換ができる空間があれば、年々希薄化が叫ばれている市民同士の交流も促進され、居心地のよいまちになるとともに、そこから新しいアイデアが生まれ、より魅力的な街になっていくのではとの意見があった。

「家賃の安さ」については、都心のベッドタウンでありながら、家賃が手頃であるのは一つの売りになるのではとの提案であった。

- ・ 第2回のワークショップでは、「子育てしたいと思えるまちへ」のテーマの下、「複合的商業施設」「移動のしやすさ」「親の負担の軽減」などがポイントとして挙げられていた。

「複合的商業施設」については、通院や行政手続き、買い物など、様々な用事を一度に済ませられるような施設があると非常に便利であるとの意見があった。

「移動のしやすさ」については、子どもの目線として、主な移動手段が自転車になることから、移動しやすい道路環境の整備や、防犯灯の設置等による安心安全な環境の整備、また電動キックボードなどの導入による移動性の向上などが提案として挙げられた。

「親の負担の軽減」については、子育ての中で様々な負担や不安を抱える中で、市公式LINEの活用により様々な疑問に答えてくれるシステムの導入のほか、PTAや学校への送迎などの改革などにより、親の負担が少なくなれば子育てもしやすくなるのではとの意見であった。

- ・ 第3回のワークショップでは、「SDGsの実現に向けてできること」のテーマの下、「規格外の野菜の活用」「ゴミに対する意識の向上」「小中学生へのアプローチ」などがポイントとして挙げられていた。

「規格外の野菜の活用」については、フードロス削減の観点からの意見であるが、商品として出荷できず、廃棄されてしまうような規格外の野菜を活用することで、野菜の廃棄を減らし、消費者も安価に野菜を手に入れられるため、Win-Winの関係を築きながらSDGsの推進にもつながるのではとの提案であった。

「ゴミに対する意識の向上」については、以前から問題視されている海洋ごみ削減の観点から、実際に海辺に流れ着いたごみに触れてもらうことで、環境破壊の現状把握や環境保護の意識向上を図るワークショップを開催してみてもとの提案であった。

「小中学生へのアプローチ」については、SDGsの達成目標年度とされている2030年をはじめとした未来を担う世代である小中学生を対象に、ワークショップなどを交えたSDGsの学習の機会を積極的に設けることが、将来的なSDGsの推進に大きく寄与するのではとの提案であった。

- ・ 第4回のワークショップでは、「居心地のよい新保健福祉施設とするために」のテーマの下、「使いやすい環境の整備」「空間づくり」などがポイントとして挙げられていた。

「使いやすい環境の整備」については、子ども、母親、高齢者、また障がい者など様々な利用者が使いやすい環境(バリアフリー・ユニバーサルデザイン)とするべきであるとの意見であった。

「空間づくり」については、様々な利用者が交流できる空間であることや明るい空間であることをはじめとして、外観や構造を重視するのではなく、「そこで何ができるかが大切である」との意見であった。

また、「市広報紙を活用して新保健福祉施設に対する意見・アイデアを募集してみても」との提案を受け、具体的に提案募集の記事を掲載する方向で検討を進めることとする。

- ・ 全体として、限られた資源(財源・人材など)の中で「ターゲットを絞って」施策を考えるべきとの意見が多かった。また、派生する考え方の意見として、「まちの持続性」「強みを伸ばす」「無いものは他市町村に任せる」といったことも出ていた。
- ・ ハードありき、ものありき、コトありきではなく、その施策によって場に集う「人」や担う「人」がどうありたい、どうしたいといった、「人」に視点を当てた言及もあった。